

観点別評価の方法と評価の基準例（例1）

科目名：生物基礎

使用教科書 数研出版『改訂版 新編 生物基礎』

章	節	評価の観点	評価の内容	評価の方法	評価基準		
					A	B	C
第1章 生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性	知識・技能	・生物が「細胞からできている」、「遺伝情報としてDNAをもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解する。	・「この節の目標の振り返り」①, ② (p.33) に答えさせる。	キーワードを概ね正しく用いて説明することができる。	一部誤りがあるがキーワードを用いて説明できる。	1つもキーワードを正しく用いて説明できていない。
			・生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。	・章末問題 (p.56,57) の用語チェック1~8, 演習問題1,2に答えさせる。	正しく回答できる。	一部誤りがあるが概ね正しく回答できる。	正しく回答できているものがほとんどない。
			・観察①「真核細胞と原核細胞の観察」(p.34,35) を行い, 原核細胞と真核細胞の違いを知る。	・細胞を観察するのに適したプレパラートを作成させる。 ・目的とする観察対象を観察させる。 ・細胞の大きさや形態などの特徴をレポートにまとめさせる。	実験操作を適切に行うことができる。	一部誤りがあるが実験操作を概ね適切に行うことができる。	実験操作を適切に行える場面がほとんど見られない。
		思考・判断・表現	・さまざまな哺乳類の比較に基づいて, 生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき, 説明できる。	・「Quest」(p.28,29) について考えさせ, 記述等で表現させる。	生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることを説明することができる。	一部不十分などところが見られるが概ね生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることを説明することができる。	生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることを説明できている部分が見られない。
			・中学校で得た知識などを活用して, 哺乳類に見られる共通性について説明できる。	・「Quest」(p.29) について考えさせ, 記述等で表現させる。	哺乳類に見られる共通性について説明することができる。	一部不十分などところが見られるが哺乳類に見られる共通性について説明することができる。	哺乳類に見られる共通性について説明できている部分が見られない。
			・系統樹を正しく読み取ることができる。	・「Quest」(p.29) について考えさせ, 答えさせる。	3つの特徴をすべて正しく判断することができる。	1つ以上の特徴を正しく判断することができる。	1つも特徴を正しく判断できない。
	・さまざまな生物の比較に基づいて, すべての生物に見られる特徴について考え, 共通性を見いだすことができる。		・「Quest」(p.30) について考えさせ, 記述等で表現させる。	すべての生物に共通する特徴として細胞について言及することができる。	すべての生物に共通する特徴として膜や区切りといった細胞ととれる表現が見られる。	すべての生物に共通する特徴として細胞ととれる表現が見られない。	
	・生物と生物でないものを見分け, その判断理由について「生物の共通性」をもとに説明できる。		・「考えてみよう」(p.31) について考えさせ, 記述等で説明させる。	「生物の共通性」をもとに生物と生物でないものを判断することができるが, 理由を説明することができる。	「生物の共通性」をもとに生物と生物でないものを判断することができるが, 理由を説明できない。	「生物の共通性」をもとに生物と生物でないものを判断できない。	
	主体的に学習に取り組む態度	・生物の多様性と共通性に関心をもち, 主体的に学習に取り組める。	・「Quest」(p.28,29,30), 「考えてみよう」(p.31) などのそれぞれの発問に対する生徒の取り組み。	発問に対して自分の考えを表現することができた。	一部できていないものもあるが発問に対して自分の考えを表現することができた。	発問に対して自分の考えを表現できたものがほとんどなかった。	
		・学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。	・学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。	学習内容をノート・レポートにまとめたり, 学習内容についてまとめたことを発表することができた。	一部不十分ではあるが学習内容をノート・レポートにまとめたり, 学習内容についてまとめたことを発表することができた。	学習内容をノート・レポートにまとめたり, 学習内容についてまとめたことを発表するところまで至れなかった。	
		・単元学習を通して自らの学習を調整しようとする。	・この単元での学習内容を振り返り, 次の単元での学習の改善点を記述等で表現させる。	学習の改善点を具体的にあげることができた。	一部抽象的な表現が見られるが学習の改善点をあげることができた。	学習の改善点をあげることができなかった。	
	第2節 エネルギーと代謝	知識・技能	・生命活動にはエネルギーが必要であり, そのエネルギーはATPから供給されていることを理解する。	・「この節の目標の振り返り」①, ② (p.43) に答えさせる。	キーワードを概ね正しく用いて説明することができる。	一部誤りがあるがキーワードを用いて説明できる。	1つもキーワードを正しく用いて説明できていない。
・ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。			・章末問題 (p.56,57) の用語チェック9,10, 演習問題3に答えさせる。	正しく回答できる。	一部誤りがあるが概ね正しく回答できる。	正しく回答できているものがほとんどない。	
・実習①「1日の消費エネルギーの算出」(p.41) を行い, 自分自身が1日で消費するエネルギーの量を知る。			・正しい計算式を立て, 消費エネルギー量を計算することができる。	正しい計算式を立て, 1日の消費エネルギー量を計算することができる。	正しい計算式を立てることができるが, 1日の消費エネルギー量の計算に一部誤りが見られる。	正しい計算式を立てることができない。	
思考・判断・表現		・ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。	・「Quest」(p.40) について考えさせ, 記述等で表現させる。	ヒトのエネルギーと食物による有機物の摂取との関係について表現できている。	不十分ではあるがヒトのエネルギーと食物による有機物の摂取との関係についての表現が見られる。	ヒトのエネルギーと食物による有機物の摂取との関係についての表現がほとんど見られない。	
		主体的に学習に取り組む態度	・エネルギーと代謝に関心をもち, 主体的に学習に取り組める。	・「Quest」(p.40) などの発問に対する生徒の様子を観察する。	発問に対して自分の考えを表現することができた。	一部できていないものもあるが発問に対して自分の考えを表現することができた。	発問に対して自分の考えを表現できたものがほとんどなかった。
・学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。			・学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。	学習内容をノート・レポートにまとめたり, 学習内容についてまとめたことを発表することができた。	一部不十分ではあるが学習内容をノート・レポートにまとめたり, 学習内容についてまとめたことを発表することができた。	学習内容をノート・レポートにまとめたり, 学習内容についてまとめたことを発表するところまで至れなかった。	
・単元学習を通して自らの学習を調整しようとする。	・この単元での学習内容を振り返り, 次の単元での学習の改善点を記述等で表現させる。		学習の改善点を具体的にあげることができた。	一部抽象的な表現が見られるが学習の改善点をあげることができた。	学習の改善点をあげることができなかった。		

観点別評価の方法と評価の基準例（例3）

科目名：生物基礎

使用教科書 数研出版 『改訂版 新編 生物基礎』

章	節	評価の観点	評価規準（評価の方法）	評価基準		
				A	B	C
第1章 生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性	知識・技能	生物の多様性や共通性についての事例を理解している。	生物のもつ多様性と共通性を系統と結びつけて理解している。	生物の多様性と共通性は共通祖先から進化してきたことによることを理解している。	地球上に存在する生物の多様性と共通性の関係を十分には理解していない。
		思考・判断・表現	生物の多様性と共通性の由来について説明することができる。	細胞という共通性を持ちながら多様性があることを進化の視点で説明できる。	進化による多様性と、生物として細胞を持つことをそれぞれ説明できる。	多様な生物の存在や生物に共通する細胞についてうまく説明ができない。
		主体的に学習に取り組む態度	生物の多様性や共通性についての知識や理解をもとにして身の回りの生物を知ろうとする。	自分の理解を他の生徒に説明するとともに、他の生徒の説明を聞き理解を深めようとする。	自分の理解を他の生徒に説明して自らの理解を深めようとする。	教師や他の生徒の説明を聞き、理解を深めようとすることができない。
	第2節 エネルギーと代謝	知識・技能	生命活動にはエネルギーが必要であることを理解している。	生命活動はATPのエネルギーを様々な形に変換して行われていることを理解している。	生命活動でのエネルギーがATPの化学エネルギーであることを理解している。	生命活動を行うためにエネルギーが必要であることを十分に理解していない。
		思考・判断・表現	生命活動でのエネルギーの利用について説明することができる。	ATPの化学エネルギーがさまざまなエネルギーに変換されることを説明できる。	ATPが生命活動のエネルギー物質であることを説明できる。	生命活動に必要なエネルギーについてうまく説明できない。
		主体的に学習に取り組む態度	生命活動でのエネルギーについての知識や理解を自分自身の生命活動と結びつけて、とらえようとする。	自分の理解を他の生徒に説明するとともに、他の生徒の説明を聞き理解を深めようとする。	自分の理解を他の生徒に説明して自らの理解を深めようとする。	教師や他の生徒の説明を聞き、理解を深めようとすることができない。
	第3節 呼吸と光合成	知識・技能	呼吸と光合成がエネルギーを扱う生命現象であることを理解している。	呼吸や光合成での物質の変化とそれに伴うエネルギーの変換について理解している。	呼吸や光合成でどのような物質の変化が起こり、エネルギーの出入りが起こっているかを理解している。	呼吸や光合成と生物が生きていくためのエネルギーとの関係を十分に理解していない。
		思考・判断・表現	呼吸と光合成でのエネルギーの変換について説明することができる。	呼吸や光合成での物質の変化やエネルギーの出入りを酵素のはたらきに触れて説明できる。	呼吸や光合成での物質の変化やエネルギーの出入りを説明できる。	呼吸や光合成でのエネルギーの変換についてうまく説明できない。
		主体的に学習に取り組む態度	呼吸や光合成でのエネルギー変換についての知識や理解がすべての生物にとって重要なものであることをとらえようとする。	自分の理解を他の生徒に説明するとともに、他の生徒の説明を聞き理解を深めようとする。	自分の理解を他の生徒に説明して自らの理解を深めようとする。	教師や他の生徒の説明を聞き、理解を深めようとすることができない。